

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-105615

(43) 公開日 平成10年(1998) 4月24日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

G 0 6 F 17/60

G 0 6 F 15/21

Z

E 0 4 H 13/00

E 0 4 H 13/00

A

審査請求 未請求 請求項の数4 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平8-277239

(22) 出願日 平成 8 年(1996) 9 月27日

(71) 出願人 596151157

松島 如戒

千葉県富津市相川887番地

(72) 発明者 松島 如戒

千葉県富津市相川887番地

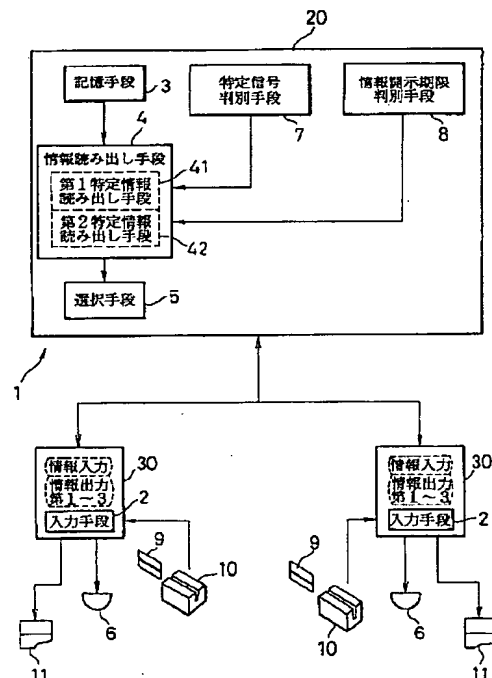
(74) 代理人 弁理士 重信 和男 (外1名)

(54) 【発明の名称】 墓参システム

(57) 【要約】

【課題】 個人データ、家系データ、個人の肖像、墓石、墓地の全景、個人の肉声、お経等墓参に関する多大で、多種多様な各情報を簡単に保管することができるとともに、しかも、一定条件下で見ることができ、また、墓参りに対する多大な労力も軽減することができる墓参システムを提供すること。

【解決手段】 個人データ、家系データ等に関する文字情報または個人の肖像、墓石、墓地の全景等に関するイメージ情報或いは個人の肉声、お経等に関する音声情報は、入力手段2により入力され、この入力手段2により入力される前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報は記憶手段3に記憶される。さらに、特定信号により操作可能な情報読み出し手段4により、前記記憶手段3に記憶されている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を一定条件下で読み出し、選択手段5により前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を選択する。この選択手段5により選択される前記各情報は単独に、あるいは複合的に表示手段6により表示される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 個人データ、家系データ等に関する文字情報または個人の肖像、墓石、墓地の全景等に関するイメージ情報或いは個人の肉声、お経等に関する音声情報を入力する入力手段と、

該入力手段により入力される前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を記憶する記憶手段と、

特定信号により操作可能であって、該記憶手段に記憶されている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を一定条件下で前記記憶手段から読み出す情報読み出し手段と、

該情報読み出し手段から読み出される前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を選択する選択手段と、

該選択手段により選択される前記各情報を単独に、あるいは複合的に表示する表示手段とを備えていることを特徴とする墓参システム。

【請求項2】 前記特定信号を重要度によって判別する特定信号判別手段を備えているとともに、前記情報読み出し手段には、重要度によってランク付けされている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を前記特定信号判別手段によって判別される特定信号に対応して読み出し可能な第1特定情報読み出し手段が設けられていることを特徴とする請求項1記載の墓参システム。

【請求項3】 前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報の開示期限を判別する情報開示期限判別手段を備えているとともに、前記情報読み出し手段には、開示期限によってランク付けされている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を前記情報開示期限判別手段によって判別される開示期限に対応して読み出し可能な第2特定情報読み出し手段が設けられていることを特徴とする請求項1または2記載の墓参システム。

【請求項4】 前記表示手段は、各家庭内に配置されていることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の墓参システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えば、個人データ、家系データ等に関する文字情報または個人の肖像、墓石、墓地の全景等に関するイメージ情報或いは個人の肉声、お経等に関する音声情報を一定条件下で読み出し、画面上で墓参りを可能にする墓参システムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、墓とは遺骨を納め、人間として存在した証を石碑に刻むことで、メモリーするためのものであって、墓がないと死後遺骨に困るというのが、墓を必要とする率直な思いである。

【0003】通常、墓は墓地等に建立され、家系、個人に関する情報等は、菩提寺または霊園において紙媒体等により記録されていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来、墓は墓地等に建立されているため、墓地等が自宅から遠隔地にある場合には、墓参りに多大な労力を有するとともに、必要時に即、墓参りをすることができないという問題があった。

【0005】また、家系、個人に関する情報等は、菩提寺、霊園等に紙媒体等により保管されているため、その情報量には限度があるばかりか、情報の種類によっては特定の人にしか開示したくないものや、一定期間開示したくないものも含まれている。

【0006】本発明は、上記問題点を解決するためになされたもので、個人データ、家系データ、個人の肖像、墓石、墓地の全景、個人の肉声、お経等墓参に関する多大で、多種多様な各情報を簡単に保管することができるとともに、しかも、一定条件下で読み出し可能で、また、墓参りに対する多大な労力も軽減することができる墓参システムを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明の墓参システムは、個人データ、家系データ等に関する文字情報または個人の肖像、墓石、墓地の全景等に関するイメージ情報或いは個人の肉声、お経等に関する音声情報を入力する入力手段と、該入力手段により入力される前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を記憶する記憶手段と、特定信号により操作可能であって、該記憶手段に記憶されている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を一定条件下で前記記憶手段から読み出す情報読み出し手段と、該情報読み出し手段から読み出される前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を選択する選択手段と、該選択手段により選択される前記各情報を単独に、あるいは複合的に表示する表示手段とを備えていることを特徴としている。この特徴により、個人データ、家系データ等に関する文字情報または個人の肖像、墓石、墓地の全景等に関するイメージ情報或いは個人の肉声、お経等に関する音声情報は、入力手段により入力され、この入力手段により入力される前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報は記憶手段に記憶される。さらに、特定信号により操作可能な情報読み出し手段により、前記記憶手段に記憶されている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を一定条件下で読み出し、選択手段により前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を選択する。この選択手段により選択される前記各情報は単独に、あるいは複合的に表示手段により表示される。これにより、個人データ、家系データ、個人の肖像、墓石、墓地の全景、個人の肉声、お経等墓参に関する多大で、多種多様な各種情報が簡単に保管されるとともに、しかも、一定条件下で読み出し可能で、また、墓参りに対する多大な労力も軽減することができる。

【0008】本発明の墓参システムは、前記特定信号を

重要度によって判別する特定信号判別手段を備えているとともに、前記情報読み出し手段には、重要度によってランク付けされている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を前記特定信号判別手段によって判別される特定信号に対応して読み出し可能な第1特定情報読み出し手段が設けられていることが好ましい。このようにすることで、重要度によってランク付けされている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報が、前記特定信号判別手段によって判別される特定信号に対応して第1特定情報読み出し手段により読み出される。したがって、特定の人に対応した前記各情報の読み出しが可能になり、前記各情報の重要度が保たれる。

【0009】本発明の墓参システムは、前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報の開示期限を判別する情報開示期限判別手段を備えているとともに、前記情報読み出し手段には、開示期限によってランク付けされている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を前記情報開示期限判別手段によって判別される開示期限に対応して読み出し可能な第2特定情報読み出し手段が設けられていることが好ましい。このようにすることで、開示期限によってランク付けされている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報が、情報開示期限判別手段によって判別される開示期限に対応して第2特定情報読み出し手段により読み出される。したがって、前記各情報の開示期限が特定されているので、前記各情報の秘密度が保たれる。

【0010】本発明の墓参システムは、前記表示手段は、各家庭内に配置されていることが好ましい。このようにすることで、各家庭内の表示手段上に前記各情報が表示されるため、前記各情報が簡単に得られるとともに、墓参りに対する労力もより軽減される。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、実施の形態を挙げ図面に基づいて本発明を説明する。

【0012】先ず、図1は本発明の墓参システムのクレーム対応図、図2は本発明の墓参システムの実施形態のブロック図を示し、この墓参システム1は、入力手段2、記憶手段3、情報読み出し手段4、選択手段5、表示手段6、特定信号判別手段7及び情報開示期限判別手段8で構成されている。

【0013】入力手段2は、端末装置30に装備され、文字情報を入力するキーボード（図示せず）、イメージ情報、音声情報を入力するビデオ入力装置（図示せず）等を有し、IDカード9をカードリーダー10で読み取ることにより入力可能とされている。

【0014】これにより、個人データ、家系データ等に関する文字情報または個人の肖像、墓石、墓地の全景等に関するイメージ情報或いは個人の肉声、お経等に関する音声情報が入力手段2により入力される。

【0015】記憶手段3は、磁気ディスク、ビデオディ

スク（図示せず）等を有し、入力手段2により入力される前記文字情報、イメージ情報及び音声情報を記憶可能に構成している。

【0016】情報読み出し手段4は、第1特定情報読み出し手段41及び第2特定情報読み出し手段42を有し、IDカード9をカードリーダー10で読み取り、そのIDカード9が特定のものと判別された場合には、前記記憶手段3に記憶されている文字情報、イメージ情報或いは音声情報を一定条件下で読み出し可能に構成している。

【0017】選択手段5は、前記情報読み出し手段4から読み出される文字情報、イメージ情報或いは音声情報を選択可能に構成されている。

【0018】表示手段6は、例えば、CRT装置等で構成され、前記選択手段5により選択される前記各情報を単独に、あるいは複合的に（例えば、文字情報とイメージ情報を合わせて）表示可能に構成されている。

【0019】特定信号判別手段7は、IDカード9を特定のものとし、その重要度によって判別するように構成されており、この特定信号判別手段7によって判別される特定のIDカード9に対応して、前記第1特定情報読み出し手段41からは重要度によってランク付けされている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報が読み出される。

【0020】情報開示期限判別手段8は、前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報の開示期限を判別するように構成されており、この情報開示期限判別手段8によって判別される開示期限に対応して、前記第2特定情報読み出し手段42からは開示期限によってランク付けされている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報が読み出される。

【0021】端末装置30にはプリンタ9が接続されており、このプリンタ9は前記文字情報、或いは本墓参システム1を使用した際の個人の課金情報等が出力されるように構成されている。

【0022】記憶手段3、情報読み出し手段4、選択手段5、特定信号判別手段7及び情報開示期限判別手段8は中央制御装置20に装備されており、中央制御装置20と端末装置30は光ファイバーケーブル等により接続されている。これにより、端末装置30及び表示手段6は各家庭内に配置することが可能になる。

【0023】次に、墓参システムの機能を図3～10に基づいて説明する。

【0024】[1] 情報入力モード

墓参に関する文字情報、イメージ情報或いは音声情報を入力するには、まず、端末装置30を情報入力モードに切り換え、図3のフローチャートに従って処理を行う。

【0025】まず、ステップS100でIDカード9をカードリーダー10で読み取って、入力手段2を操作可能にする。そして、ステップS101で前記文字情報、イ

メージ情報或いは音声情報のうちの情報を入力するかを選択する。

【0026】次に、ステップS102で個人データ、家系データ等に関する文字情報を入力し、ステップS103でその文字情報に重要度または開示期限によってランク付けを行う。

【0027】例えば、図4（ア）に示すように、自分の家系図を入力し、これを情報Iとする。図4（ア）の家系図の三郎（本人）をクリックすると、図4（イ）に示すように、個人データを記録する画面に切り換わり、これに記録されるものを情報IIとする。そして、次画面操作で図4（ウ）に示すメッセージを記録する画面に切り換わり、これに記録されるものを情報IIIとする。そして、情報の重要度は情報I、情報II、情報IIIにいくに従って高いものとする。

【0028】そして、ステップS108でこれら情報I～IIIは記憶手段3に記憶される。次に、ステップS109で文字情報以外に情報の入力がある場合には、ステップS101に戻り、個人の肖像、墓石、墓地の全景等に関するイメージ情報の入力がある時には、ステップS104に進み、ステップS105でその情報の重要度または開示期限によってランク付けを行い、また、個人の肉声、お経等に関する音声情報の入力がある時には、ステップS106に進み、ステップS107でその情報の重要度または開示期限によってランク付けを行い、これら情報を前記同様、ステップS108で記憶手段3に記憶する。

【0029】このように墓参に関する文字情報、イメージ情報或いは音声情報は、キーボード及びビデオ入力装置等を有する入力手段2により入力され、これら情報には重要度または開示期限が付与されて、磁気ディスク及びビデオディスク等を有する記憶手段3に記憶される。

【0030】このように本モードでは、個人データ、家系データ、個人の肖像、墓石、墓地の全景、個人の肉声、お経等墓参に関する多大で、多種多様な各種情報が簡単に保管される。

【0031】〔2〕情報出力第1モード
端末装置30で情報出力第1モードを選択すると、図5のフローチャートに従って、記憶手段3に記憶されている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報が一定条件下で読み出される。

【0032】すなわち、ステップS200でIDカード9をカードリーダー10で読み取って、ステップS201でそのIDカード9が特定のものであるかを判別する。本実施の形態では、図6に示すように、IDカードがA、B、Cであるかを判別し、「YES」の場合にはステップS202に進み、「NO」の場合にはステップS208に進む。そして、ステップS208では、ステップS201での特定のIDカードの判別において、「NO」の回数が2回以下の場合にはステップS200に戻

り再度実行を行うが、「NO」の回数が3回を越えると、本モードの操作は終了する。

【0033】ステップS202では、ステップS201で判別された特定のIDカードに対応する特定の前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を情報読み出し手段4内の第1特定情報読み出し手段41によって記憶手段3から読み出す。より詳しくは、図6に示すように、IDカードAに対しては情報I、IDカードBに対しては情報I及びII、IDカードCに対しては情報I～IIIが読み出し可能にされている。なお、前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報には、例えば、文字情報I、イメージ情報I等それぞれ前記各情報ごとにランク付けされている。

【0034】ステップS203では、ステップS202で特定された文字情報、イメージ情報或いは音声情報を選択し、ステップS204では文字情報を、ステップS205ではイメージ情報を、ステップS206では音声情報をそれぞれ出力し、ステップS207では前記各情報を単独に、あるいは複合的に表示手段6に表示する。

【0035】このように本モードでは、図6に示すように、特定の人（特定のIDカード）に対応した個人データ、家系データ、個人の肖像、墓石、墓地の全景、個人の肉声、お経等墓参に関する多大で、多種多様な前記各情報（情報I～III）の読み出しが可能になるので、前記各情報の重要度が保たれる。

【0036】そして、表示手段6にはイメージ情報として墓石、墓地の全景が表示可能であって、音声情報としてのお経も出力できるので、墓参りに対する多大な労力も軽減することができる。さらに、表示手段6は家庭内に配置することができるので、墓参りに対する労力も一層軽減できる。なお、墓石には花を入れ替えたり、水を替えたり、ローソク・線香を灯す等の操作を画面上で操作可能にするようにしても良い。

〔3〕情報出力第2モード
端末装置30で情報出力第2モードを選択すると、図7のフローチャートに従って、記憶手段3に記憶されている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報が一定条件下で読み出される。

【0037】すなわち、ステップS300でIDカード9をカードリーダー10で読み取って、ステップS301で前記各情報が開示期限を過ぎているかを判別する。本実施の形態では、図8に示すように、情報Iの開示期限を西暦2000年、情報IIの開示期限を西暦2010年、情報IIIの開示期限を西暦2020年に設定し、ステップS301で現時点が各情報の開示期限を過ぎている場合にはステップS302に進み、過ぎている場合には本モードは終了する。

【0038】ステップS302では、ステップS301で判別された開示期限に対応する特定の前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を情報読み出し手段4内の

【0052】(c)請求項3の発明によれば、前記各情報の開示期限が特定されているので、前記各情報の秘密度が保たれる。

【0053】(d)請求項4の発明によれば、各家庭内の表示手段上に前記各情報が表示されるため、前記各情報が簡単に得られるとともに、墓参りに対する労力もより軽減される。

【0054】

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のクレーム対応図である。

【図2】本発明の実施形態を示す墓参システムのブロック図である。

【図3】本発明の実施形態を示す墓参システムの情報入力フローチャートである。

【図4】本発明の実施形態を示す墓参システムの情報入力のイメージ図である。

【図5】本発明の実施形態を示す墓参システムの情報出力第1モードのフローチャートである。

【図6】図5の情報出力第1モードのイメージ図である。

【図7】本発明の実施形態を示す墓参システムの情報出力第2モードのフローチャートである。

【図8】図7の情報出力第2モードのイメージ図である。

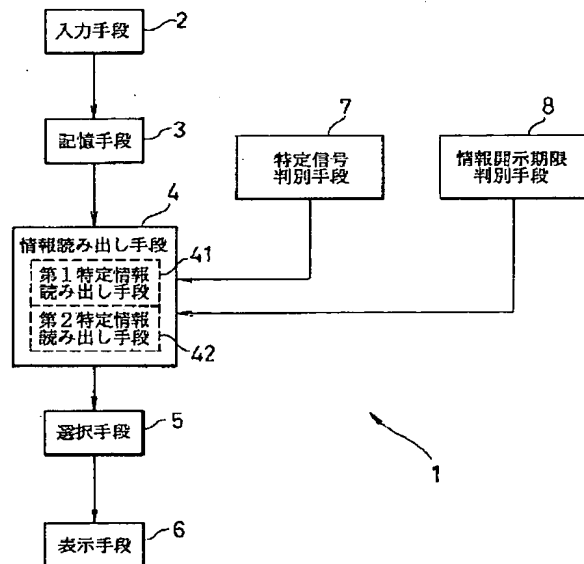
【図9】本発明の実施形態を示す墓参システムの情報出力第3モードのフローチャートである。

【図10】図9の情報出力第3モードのイメージ図である。

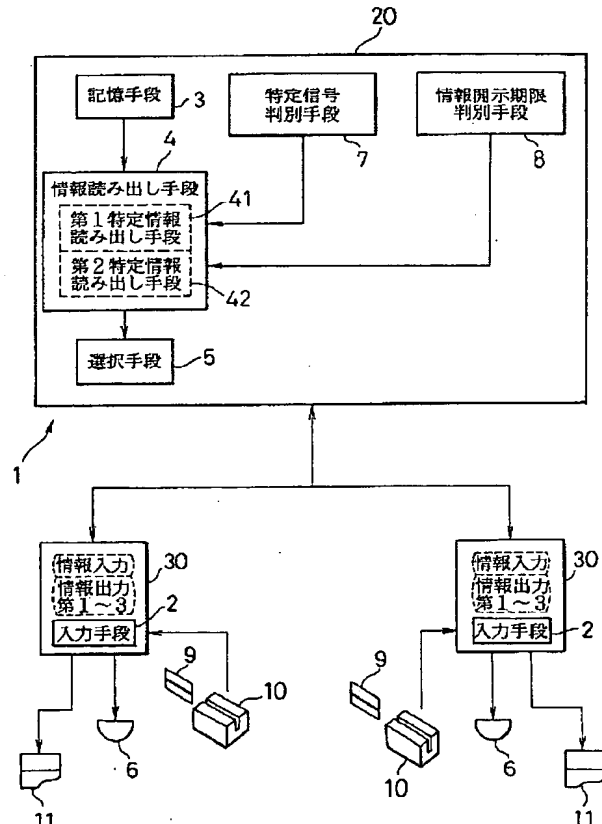
【符号の説明】

- 1 墓参システム
- 2 入力手段
- 3 記憶手段
- 4 情報読み出し手段
- 41 第1特定情報読み出し手段
- 42 第2特定情報読み出し手段
- 5 選択手段
- 6 表示手段
- 7 特定信号判別手段
- 8 情報開示期限判別手段
- 9 IDカード
- 10 カードリーダー
- 11 プリンタ
- 20 中央制御装置
- 30 端末装置

【図1】



【図2】



第2特定情報読み出し手段42によって記憶手段3から読み出す。より詳しくは、前記した如く、図8に示すように、西暦2000年に情報Iを、西暦2010年に情報IIを、西暦2020年に情報IIIをそれぞれ開示可能として、情報I～IIIが読み出し可能にされている。なお、前述同様、前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報には、それぞれ前記各情報ごとにランク付けされている。

【0039】ステップS303では、ステップ302で特定された文字情報、イメージ情報或いは音声情報を選択し、ステップS304では文字情報を、ステップS305ではイメージ情報を、ステップS306では音声情報をそれぞれ出力し、ステップS307では前記各情報を単独に、あるいは複合的に表示手段6に表示する。

【0040】このように本モードでは、図8に示すように、個人データ、家系データ、個人の肖像、墓石、墓地の全景、個人の肉声、お経等墓参に関する多大で、多種多様な前記各情報（情報I～III）の開示期限が特定されるので、前記各情報の秘密度が保たれる。

【0041】[4] 情報出力第3モード
端末装置30で情報出力第3モードを選択すると、図9のフローチャートに従って、記憶手段3に記憶されている前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報が一定条件下で読み出される。本モードは前記情報出力第1モードと情報出力第2モードを組み合わせたものである。

【0042】すなわち、ステップS400でIDカード9をカードリーダー10で読み取って、ステップS401でそのIDカード9が特定のものであるかを判別する。本実施の形態では、図10に示すように、IDカードがA、B、Cであるかを判別し、「YES」の場合にはステップS402に進み、「NO」の場合にはステップS409に進む。そして、ステップS409では、ステップS401での特定のIDカードの判別において、「NO」の回数が2回以下の場合にはステップS400に戻り再度実行を行うが、「NO」の回数が3回を越えると、本モードの操作は終了する。

【0043】ステップS402では前記各情報が開示期限を過ぎているかを判別する。本実施の形態では、図10に示すように、IDカードCの場合には情報Iの開示期限を西暦2000年、情報IIの開示期限を西暦2010年、情報IIIの開示期限を西暦2020年に設定し、IDカードBの場合には情報Iの開示期限を西暦2010年、情報IIの開示期限を西暦2020年、情報IIIの開示期限を西暦2030年に設定し、IDカードAの場合には情報Iの開示期限を西暦2020年、情報IIの開示期限を西暦2030年、情報IIIの開示期限を西暦2040年に設定している。そして、ステップS402で現時点が前記各情報の開示期限を過ぎている場合にはステップS402に進み、過ぎている場合には本モードは終了する。

【0044】ステップS403では、ステップS401で判別された特定IDカードに対応し、かつ、ステップ402で判別される開示期限に対応する特定の前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報を情報読み出し手段4内の第1特定情報読み出し手段41及び第2特定情報読み出し手段42によって記憶手段3から読み出す。より詳しくは、図10に示すように、西暦2000年においては、IDカードCでは情報Iが読み出されるが、IDカードB及びAではいかなる情報も読み出すことはできない。また、西暦2020年においては、IDカードCでは情報I～IIIが読み出されるが、IDカードBでは情報I及びIIが読み出され、IDカードAでは情報Iのみが読み出される。なお、前述同様、前記文字情報、イメージ情報或いは音声情報には、それぞれ前記各情報ごとにランク付けされている。

【0045】ステップS404では、ステップ403で特定された文字情報、イメージ情報或いは音声情報を選択し、ステップS405では文字情報を、ステップS406ではイメージ情報を、ステップS407では音声情報をそれぞれ出力し、ステップS408では前記各情報を単独に、あるいは複合的に表示手段6に表示する。

【0046】このように本モードでは、図10に示すように、特定の人（特定のIDカード）に対応し、かつ、開示期限が特定される個人データ、家系データ、個人の肖像、墓石、墓地の全景、個人の肉声、お経等墓参に関する多大で、多種多様な前記各情報（情報I～III）の読み出しが可能になるので、前記各情報の重要度及び秘密度が保たれる。

【0047】以上、本発明の実施形態を図面によって説明してきたが、具体的な構成はこれら実施形態に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加等があっても本発明に含まれる。

【0048】例えば、上記実施の形態では、文字情報としては個人データ、家系データ、イメージ情報としては個人の肖像、墓石、墓地の全景、音声情報としては個人の肉声、お経を例にしているが、この他にも、文字情報としては家訓、遺言、日記等、イメージ情報としてはアルバム、写真等、音声情報としては音声としての遺言等墓参に関する情報はすべて含まれる。

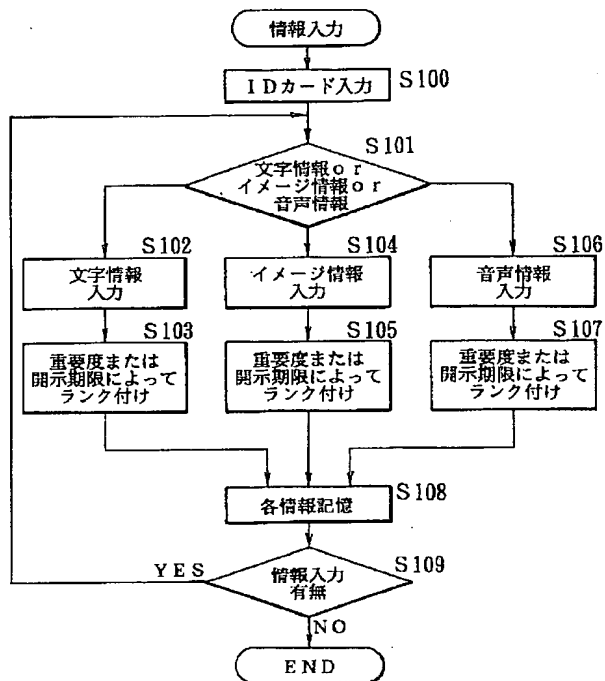
【0049】

【発明の効果】本発明は次の効果を奏する。

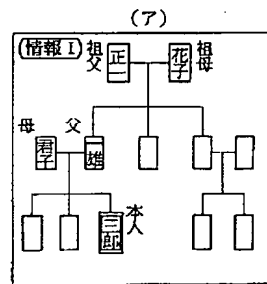
【0050】(a) 請求項1の発明によれば、個人データ、家系データ、個人の肖像、墓石、墓地の全景、個人の肉声、お経等墓参に関する多大で、多種多様な各種情報が簡単に保管されとともに、しかも、一定条件下で読み出し可能で、また、墓参に対する多大な労力も軽減することができる。

【0051】(b) 請求項2の発明によれば、特定の人に対応した前記各情報の読み出しが可能になり、前記各情報の重要度が保たれる。

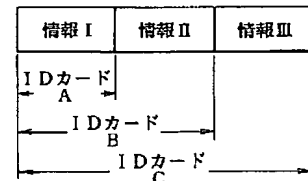
【図3】



【図4】



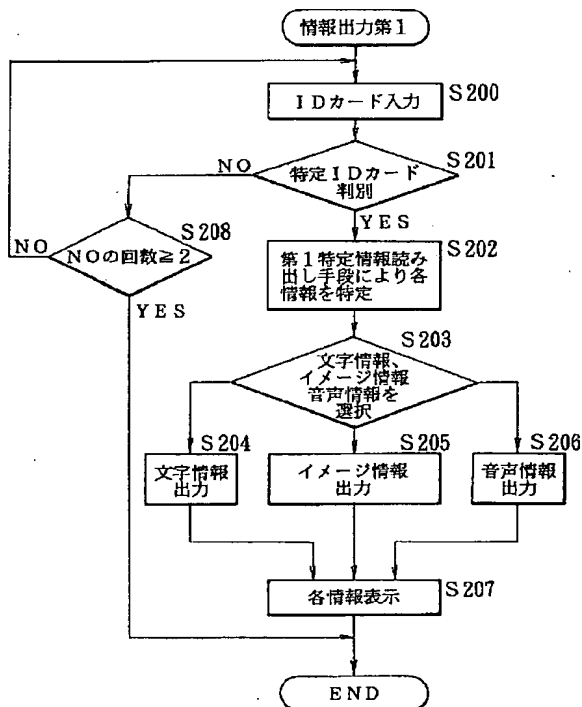
【図6】



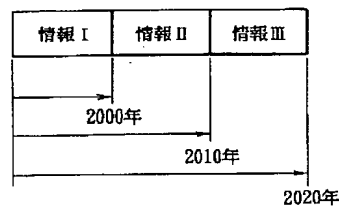
【図10】

ID カード 開示 期限	C	B	A
2000年	情報Ⅰ		
2010年	情報Ⅱ	情報Ⅰ	
2020年	情報Ⅲ	情報Ⅱ	情報Ⅰ
2030年		情報Ⅲ	情報Ⅱ
2040年			情報Ⅲ

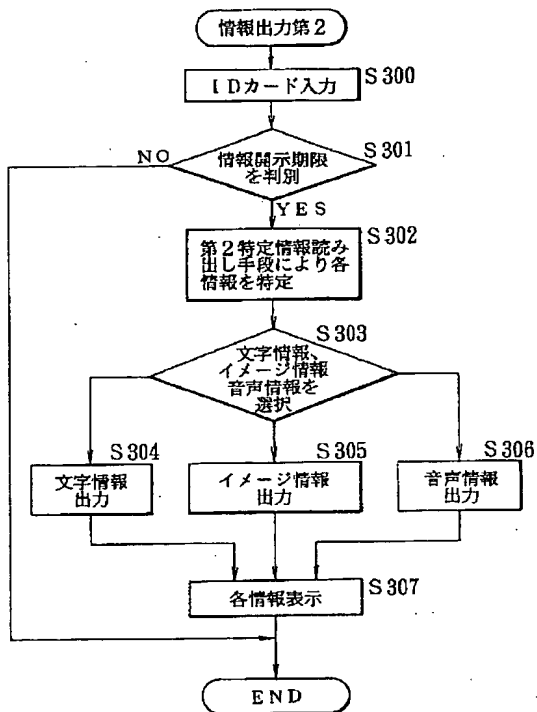
【図5】



【図8】



【図7】



【図9】

